

令和7年度 第3回

日南市教育委員会

会議録

令和7年6月20日(金) 午後3時から
日南市役所・別館2階会議室（会議室5）

- 1 会議の名称 令和7年度教育委員会 第3回会議（定例）
- 2 会議日時 令和7年6月20日（木）
午後2時50分から午後4時40分まで
- 3 出欠確認
 - （1）出席委員 都甲政文 別府信一 八木真紀子 佐藤泰信 谷口智子
 - （2）事務局 教育部長兼学校教育課長
学校教育課学校教育担当監
学校教育課長補佐兼管理係長
生涯学習課長補佐兼生涯学習係長
生涯学習課国スポ・障スポ推進室長補佐
学校教育課管理係主任主事
 - （3）欠席 生涯学習課長
- 4 場所 日南市役所・別館2階会議室（会議室5）
- 5 傍聴者 0名
- 6 開会
【都甲教育長】
「それでは、令和7年度第3回日南市教育委員会定例会を始めさせていただきます。」
- 7 出席者及び傍聴者確認

【都甲教育長】
「出席者の確認をいたします。教育委員につきましては5名全員出席となります。事務局の方はいかがでしょうか。」

【鬼束部長】
「重永課長が出張となっておりますので、本日は代理で佐藤補佐が出席をしております。」

【都甲教育長】
「本日傍聴の方は0名となっております。」

8 活動報告

(1) 教育長活動報告

【都甲教育長】

・5月23日ですね、働き方改革推進プロジェクト委員会。働き方改革についてですね、指針を出したんですけども、それをちょっと改定する時期にきてるなっていう部分もあってですね。先生たちにアンケートをとって、そのアンケートをもとに。このプロジェクトの委員というのは、校長先生教頭先生、それぞれの職種からですね、8名集まってもらってですね。ちょっと1年間かけて、それぞれの立場で意見をもらおうかなと思ってます。

・5月24日、市美術展の表彰式ですね。市長賞をはじめ、いろいろ賞があるんですけども、教育長賞としてですね。5つの部門、5名の方に賞をお渡ししました。

・同じ日の夜、南郷シーカヤックマラソン大会前夜祭ということで、これ初めて前夜祭に出させていただいたんですけども、今年で17回目ということです。100名ほど参加されました。なかなかシーカヤックがこういうレースができる場所がなくてですね、それこそ何回も、リピーターが多かった。中には17回全部来てる人もいたりなんかしてですね、今回一番遠い方はですね、栃木。北は栃木、南は奄美大島ですね。なんと栃木の方は栃木から来た甲斐があったのか、くじ引きの商品が当たりまして、日南の醤油。100分の3くらいだったんですけどよかったです、はい。

・5月26日はですね、東郷小学校に行って、2年生の芋の苗植えを見てきました。地域の方がですね、苗を持って来ていただいて、それを子供たちが植えるということで。これから収穫までちょこちょこちょこちょこ、その方たちも来ていただいて育てていくということでした。

・それから27日、日南串間の法人会。これ女性部なんですけども、何のために来られたかという、税をですね、知ってもらうための絵はがきをですね、小学生が描いているんですよ。その絵はがきの裏に、ポスターみたいに絵を描くと。それについて依頼として来られました。

・そして28日ですね、水曜日の10時からなんですけど。これは生涯学習推進会議ということで、生涯学習事業にですね、いろいろ意見をもらうということで、去年の報告とかしまして、それに対してご意見をいただきました。

・続きまして5月28日の午後は、今度は市町村教育委員会連合会の理事会ですね。これがあるって翌日は総会だったんですけども、総会の午後からは研修としてですね、宮崎市内の弁護士の先生が来られてですね。学校の対応をですね、弁護士の法的な立場から弁護士が見た学校の対応。例えばですね、やりとりするときに録音しますって言わなくていいんですよ、法的には。なんか盗聴とは違うらしいですよ。でも感情的にやっぱり良くないですよ、黙って録っておくっていうのは。と言うのを聞きました。ですから、宮崎市内はそういうのがやっぱり法的なものもあるから、いろいろ相談とかも来てるんだろうなあと。ただし言っておられたのは、まだ制度的に弁護士さんが直接やることができないらしい。あくまで学校に対するアドバイスとかですね、そういう状況らしくて、今後制

度はどうなるかわからんけどもっていうことを言われてました。

・それから続きましては、毎年あるんですけど、29日に教育研究所の委嘱状交付式としまして、9名の先生方が今年は自分で手を挙げてですね、小学校6名、中学校3名の先生がですね。研究所の所員として1年間、自分の勉強、そして日南市の先生方のためにですね指導方法なんかを考えていくということです。

・6月3日、宮崎県奨学会。令和7年度の第1回定例理事会。これは去年も話したと思うんですけど、何で私が理事かっていうと、小村寿太郎のですね、高校生の弁論大会があるんですよ。それに対してですね、日南市としてちょっとお金を出しております、そういう意味もあって私は理事に入って、毎年この理事会に参加させてもらってます。今年も8月に小村寿太郎の弁論大会をやるということで、また審査の方にこっちから、別府委員ですかね。多分お声がかかるかと思います。よろしくお願いします。

・続きまして校長会ですけども、6月4日。ちょうどこの前5月中に学校の先生のわいせつ事案で処分っていうのが3件出まして、5月20日の日にリモートで校長会があったんですよ。それを受けまして、実際にその若手の先生がそういうわいせつ事案に、絡むようなことをした時にどうすればいいかっていうのを演習しておりました。なかなか良かったですね。3人1組で1人の先生はその校長先生自身、相手の若手の先生、そして教頭という立場で入ってもらうと。ちょっと第三者的に見てもらった様子、それでいろいろ気づきとかですね。なかなかこれも相手がいることなので難しい面もあってですよ。ただ何かの時にはやっぱりそれを校長先生にしてもらわなきゃいけないので、非常に参考になったという意見が出ておりました。

・6月5日、目指せ小村寿太郎国際塾の開塾式で、今年は34名という人数で始まりました。またお見えになった方、ご意見をお願いします。

・6月6日、油津の花峯橋の復元検討委員会。ここ2、3日日南テレビも出ていましたけど、その検討委員会、学識経験者とかですね、入っていただくんですけども、非常に皆さんですね、やっぱり花峯橋に対する思いとか、油津に対する思いをやっぱり持っておられて、頼もしいなと思いました。夢見橋を作った時に関わった都市空間デザイン。そうですね。そういう方に入っていたいていました。

・6月6日の午後4時ぐらいなんですけども、ワイヤーロックの贈呈式。これ二重ロックのことですね。自転車の鍵をして、さらにワイヤーロックをするってことで毎年遊技業組合からいただくんですけど、今年も中1高1に対して820個いただきました。

・6月7日土曜日、第40回歯と口の健康フェスティバルということでありまして、行かせていただきました。俗に言う歯の綺麗なお父さん、お母さんとかですね。あとポスターとかあったんですけども、あとは歯科技工士の方なんかも来られて、歯型を取るのと同じ形で手形とか足形を取るとかですね。親子でやっぱり参加していただいて、非常に楽しそうでした。

・6月9日、新しい副市長が来られましたので辞令の交付式がありました。お名前ご存知ですか。野田忍副市長です。県から来られました。

・続きまして6月9日、同じ日ですけども、平和を語り継ぐ会。この時期非常にこういう方が多いんですけども、この方たちは日南の元学校の先生が多くてですね。平和教育に携わってる方達が。いろんな所に行ってですね、平和教育をやっていただいと。一番メインは油津の空襲ですね。あれをよく言われてますね。油津で空襲があつて、何人か亡くなられたっていう話ですね。

・それから6月10日、これ毎年ですけども、飢肥小学校の時の記念日文化財愛護少年団の結団式。これに行かせていただきました。もうこれは本当、こういうことやるのは飢肥小だけなのでね。報道が全部来ていまして、全部報道してもらいました。

・続きましてその日の午後、日南地区租税教育推進協議会総会。これは税務署、学校それから民間の商工会とか、国県のね方々が。これについては中学生の方では租税教室と中学生の作文の募集についての話し合いでした。非常に日南地区優秀ですね。租税教室をやってる率も高かったり、作文の提出率も良くてですね。租税教育に対する皆さんの取り組みが素晴らしいなということを毎年感じています。

・それから夕方にかけて、これも年2回あるんですけど日南市官公庁連絡協議会定例会。これはいろんな出先から日南に来られている方たちがお見えになって集まってですね、いろいろ昼は話し合い、夜は意見交換会ってことでやってるんですけども、今年も何人か代わられてですね。今日新聞に載ってましたけど、海上保安部の所長さんとかですね。ああいう方のお話を聞けるっていうのはですね、私にとってもとても良い、異業種交流ですので、非常に楽しかったです。

・12日は大窪小学校の避難訓練を見に行きました。大窪小学校は子ども2人ですね。先生たちが合計で5人なんですけど、事務局の方、購買の方も合わせてですね。不審者が登場してですね、刃物を持った、上村教頭先生が一生懸命応戦してました。子どもは担任の先生が2人をどっかもう逃しちゃって、もうあとは養教の先生と教頭先生が一生懸命やっていました。やっぱり警察の人も迫力があつてですね、訓練とはいえ怖いですよ。ずっと元に戻るんですけども、やっぱりその前は凄みがきいていてなかなかすごかったです。

・13日は就職支援ソリューション。これ不登校の子とかですね、高校中退者をうまく企業に繋げないかなということで始まったものなんですけど、これの本部会議をやりました。今2人ほど中学校卒業した子たちがですね、働いておりまして、こういう形で今年も中学生そして高校の中退者とかに繋がられないかなということで、そういう状況の確認と今後のことを話し合いました。

・同じ日の午後、学校保健会総会。これ毎年やるんですけども、これは今回はですね、研究発表。養教部会の先生が研究発表されました。子供たちのやっぱりあれですね、体格などについてですね、ちょっと運動が足りないとか、そういうのをおっしゃいました。研究発表されました。そして歯医者さんがお2人で、歯の治療率とか、虫歯のリスト化いうのを説明してくださいました。

・6月15日日曜日に文化センターで日南の文化フェスティバルが行われました。私も参加させてもらいました。普段からやっぱりいろんなことに取り組んでおられる方ですね、

発表の場ですので、皆さん生き生きと発表されていました。

・6月16日、核廃絶キャラバン要望活動。これ被爆者の方です、県の方ですね。県内の日南串間の方4人おられました。あと県の方もですね、今回こういう証言集『閃光の彼方』っていうのがですね、これ作られたらしいんですけど、またこれ作り変えられたらしくて、これも届けるってことで来られました。とにかくやっぱり風化させないようにして欲しいということでした。今までは私とかはこれには同席しなかったんですけども、やっぱり学校教育が大事だろうということで、出て欲しいと言われたらしくて、私も同席したんですけども、終始私に対する質問で終わりました。何してるのかとかですね、何かする予定はあるのかですね。

・16日月曜日、県のPTA連合会の方ですね、会長さんが見えになりました。来年九州大会があると、宮崎で。日南はですね、サテライト会場みたいな形でやるんですよ。ハートフルか文化ホールか、まだどっちでしましょうっていうのははっきりしてないんですけど、日南の小学校が発表すると。中身は人権教育です。それで協力依頼がありました。

・それから18日、第75回社会を明るくする会。これはあれですね、犯罪を犯した人たちの後をちゃんと更生していこうということで、保護者の方、更生保護女性の会の方が中心になっていろんな機関の方が集まってですね、やるってことです。今度7月1日に今度は国の総理大臣のメッセージを中学生が市長に届けるっていうものがあるようです。

・18日、シンガポールのセントゲイブリエル中学校の子供たち、中学生ですね12名と、先生が3名市長を表敬されました。いつもは大体10名なんですけど、今年は12名来ておりまして、なんか天気もいいみたいで、楽しみにしておりました。

・昨日ですね、昨日19日、日南市の高校を考える意見交換会。これは市長、今の高橋市長が就任されてから、日南の子たちがやっぱり外に出ていくっていうのを、よりやっぱり日南の子は何か高校までぐらいいは日南で育てられないかってことで、市内の校長先生3人、そして中学校の進路指導の校長先生に来てもらって、いろいろ現状とかを把握しながら、じゃあ何ができるかということだったんですけども、昨日の話ではやっぱりもっと日南市内の高校のことを知ってもらわなきゃいけないんじゃないかと。その中学校3年生の親だけじゃなくて、もっと下の学年の親御さんたちにもということで、何かしら動きをやらなきゃいけないと、行動しなきゃいけないってことで話がまとまりました。

・6月19日、平和行進宮崎県実行委員会。これも同じように核をなくすために毎年全国で行進を始めて、8月の6日、9日に向けて行進するっていうことで、今年も来られました。この時もやっぱり私に対する質問がやっぱり集中してですね、何をやっているのかということで、私が市内の学校でやってもらってること、前もお話しましたかもしれませんが、今年は教育講演会に長崎から高校生に来てもらうということもお話しておきました。

(2) 委員活動報告

【別府委員】

5月28日に市町村教育委員会連合会の理事会、そして5月29日に市町村教育委員会連合会の総会に参加させていただきました。今回私は初めて参加させていただいたんですが、理事会で他の市町村の方々の話を伺うことができ、とてもですね貴重な経験させていただきました。また来年参加する際にはいろんな市町村の方とお話とか情報を仕入れて、また日南市の教育に何か使えるようなところは、またそこで発表させていただければと思っています。総会後にですね、弁護士の竹村先生の講演がございまして、「学校における法に基づいた保護者対応の必要性」という演題で、保護者の方のお話をとにかく丁寧に聞くってということと、何かあったら個人ではなく学校としてのチームで動くってところの大切さってところも勉強させていただいたところです。

続きまして6月5日、小村寿太郎国際塾の開塾式に参加いたしました。今年も本当に多くの生徒さんたちが参加されておりまして、この企画というか施策のすばらしさというのを改めて実感しました。学校から1人で参加されている生徒さんも何名かいらっしゃって、開塾式の時には話せるお友達がいなかったりとか、そんな中で勇気を出してですね、入塾されたんだろうなと思いました。その子たちが来年たくさんの経験を重ねて本当自信に満ちた姿がですね、見られる開塾式も、今からですね、ちょっと楽しみにしているところです。

ちょっと教育委員会とは違うんですけれども、5月29日に吾田まちづくりの総会と、6月11日に同じく吾田まちづくりの部会、そして6月19日に、吾田地区の青少年育成協議会の総会が行われております。この組織の中に代議員として各吾田の吾田小、吾田東小、吾田中の校長先生が入っているんですけれども、今までなかなかですね、校長先生の参加難しかったりっていう、校長先生がなかなかいらっしゃらなかったんですけど、今年は3校ともすべての校長先生に参加していただいております、地域の方々もですね、もうすごく喜んでおられましたのでこの場をお借りして報告させていただきます。

【佐藤委員】

ちょっと教育委員としてはですね、なかなか行事に参加できなかった5月でした。すみません。関連するのとしてですね、新年度に入って小学校と2回ほど連絡会というか、卒園生について会議を持つことができました、その子は特に発達支援事業所にも通っていた子なんで、その事業所からもきて、やっぱり今、幼保小連携ではこども課が中心となっているのでこども課からも見えてですね。非常にこう、いろんな目から話し合いをして良かったんですけど、皆さん本当に頑張っているんですが、なかなか保護者の要望に応えるのが難しかったり、やっぱり子どもさんも本当こうありたいという気持ちがあるんでしょうけど、なかなかそこに寄り添えないっていう苦しさというかな、そんなのをどちらも感じまして、本当に先生たちは大変だなと。先生たちだけ

じゃないんですけど、保護者の方も苦しんでるし、子供も苦しんでるし、何かしらですね、できるといいなということで。幼稚園は幼稚園で送り出した方として、そしてあと発達支援事業所は保育所等訪問っていうのがあって、保育所等訪問「保育所」っていう名前がつくから保育所しか行かないのかと思うんですけど、小学校とかもちゃんと行ける制度があって、そういうのでまた意見を出し合いながらですね、関わっていきましょうっていうふうな話になりました。やっぱり感じたのはやっぱりたくさんの居場所があると大分救われるところもあるんじゃないかなというのは思うんですよ。だから学校がすべて、学校が一番大きな存在ではあるんでしょうけど、保護者の方がもう学校すべてね、学校同士どうにかっていうふうになると、これまたなかなか大変ですね。スポーツ少年団でもいいし塾でもいいし、状況によってフリースクールとか子ども食堂とかいろんなところで、その子らしさを発揮できるような場所がですね、たくさんあるといいんじゃないかなっていうふうなことを思ったところです。

それに関連するとですね、6月5日には私たちこども食堂が入っているこども未来ネットワークという団体がありまして、それこそ監査係が今県のPTA会長の二見さんなんですよ。やっぱりそこでもこの物価高騰でこども食堂はやっぱりもうやっていけないということで、やっばうちも2回、月2回やってたのを1回に減らすっていうことにしたんですけど、やっていけない。だからもうそういう居場所がちょっとうまく機能しなくなると。フリースクールも変化いろいろあるんですけど、やっぱり有料ということで、なかなか保護者の方が使いづらい。もう物価高騰の中で、義務教育なんだけどそこはどうしてもお金払わなくちゃいけないってなると、いやあ、ここでお金出してからフリースクールはやっぱりちょっと無理、と。通う子供たちが減っているということで、せっかくそういう居場所を作ろうと思って活動していらっしゃる方がいるんですけど、うまくなんか進めないという、経営的にですね、そういう話もありました。なんか頑張ってる方がたくさんいらっしゃるんですけどね、難しいなっていうところです。

それから6月10日だったんですけど、日南高校でSDGsの講座があって、創客創人センターがそれを受けて、市内のいろんな団体に講師を依頼しているので、子供食堂の代表として行ったんですけど、これはもう高校1年生がですね、一生懸命話を聞いてくれて、質問とか。最初5分わーっと9団体だったかな。パーッと活動内容を説明して、そのあと15分を2回ワークショップで結構詳しく話す時間があつたんですけどね。かなり個人差もちろんあって、なかなかピンとこないなという学生さんもいたみたいなんですけど、やっぱり熱心な子はすごく熱心ですね、聞いてきて。やっぱりそこはなんか頼もしいなって。先ほどちょっと出ましたけど、やっぱりそういうことをやってるんだっていうことをですね、中学校の先生なり中学生なりがまた知ると地元の高校もいろいろ、ただ授業を受けるじゃなくて、自分たちで調べたり、講師を招いていろんな話を聞いたりっていう、そういう授業やってるんですよっていうことを、話してもらえればなというふうに思いました。

【谷口委員】

私は初めての教育委員としての活動で、小村寿太郎の開塾式に参加をさせていただきました。やっぱり受付のところから外国人の先生たちがいて、子供たちもなんかいいよ始まるなって、やっぱり英語なんだっていうような声とかが聞こえて、やっぱりそうだよな大事だよなっていうのを思いました。

あと1つ気づいたのが、私は結構後の方に行ったんですけど、会場を迷ってる方が何人もいて、ここで合ってるよね、ここだよなって。要は会場のところには書いてあるんですけど、入口にそれが書いていなくて、右側の広いところに何人か困ってらっしゃる子たちもいて。私はたまたまその会場を知ってたので、多分こっちですって言ってご案内して、こっちなんだって言って。6年生で5年生の時に参加したことある子はきっとわかるけど、やっぱりドキドキしながら来る子たちにとってはあの場所って結構わかりづらかったりとか、駐車場もちょっといっぱいになっていたんで、そのいっぱいになってたらどこに停めるんだらうっていう車もあったので、そこはちょっと改善するべきところかなと思いました。

あとは教育委員としてじゃないんですけど、先週串間市のPTA協議会の役員の方と意見交換会があって、市Pの副会長として行った時に、串間市の問題としてやっぱりSNSが上がってきて、今日友達と遊ぶんだって言うんですけど、会ったことのないインスタでフォローし合っている串間の友達とか、だから顔も見たことないから楽しみって。で、その親御さんたちが危ないよって言っても、「もう何回も話したことがあるし大丈夫、同い年って言ってたし」って言う中学生や小学生が結構いるってということと、あとやっぱり覚せい剤とかがもうネットですぐ手に入っちゃう。その友達もそうだけど、もう親の知らないところ、いろんなところでこうやっぱり繋がっているっていうのが串間市の中ではすごく問題だったっていうのを仰っていたので、日南市も同じですっていう話をしたところでした。なのでやっぱり串間も日南もちょっとインスタ、ラインっていうの。特にInstagramはお名前もやっぱり違う名前で載っていたりとかもするので、その自己紹介のところを見ると、例えば南郷中2年そこまで書いている子とかも結構いて、個人情報とかもあるよって一応娘にも一応話をしたけど、それは向こうも出しちよる、こっちも出しちよる、みたいな感じで、なんかもう当たり前になっているっていうのがちょっと問題だなっていう話をしたところでした。

今日はこの後また意見交換会があります。シーズンで情報交換会があって、小学校と中学校の役員の方単Pの方たちがやっぱりいっぱい来るので、そこでもちょっと上げていきたいなと思ってます。

【八木委員】

私も6月5日に国際塾の開塾式に参加しました。今までの積み重ねというか、口コミも広がってるのかなと。だからもうこれからね、なんかもう楽しいことがあるってのが

皆分かっているっていう雰囲気の中の開塾式で、何かもう本当に1年間楽しんでいただきたいなと思いました。

あと教育委員会の活動ではありませんが、3日の日にまた三股町の不登校の支援をしてるBase谷の杜に行って、都城東高校。今は、今年から櫻美学園ですかね。そのように改名されたんですけど、その不登校経験者のクラスの授業、1週間に2回かな。そこに行って授業すると。私も一緒に参加して、ちょうどその時は井戸を掘るという授業でした。井戸って本当にあつという間に掘れるんですね。安い値段で6メートル掘ればどこでも出るということなんですけど、それをなんかやっぱり地域の人とか、もういろんな人の関わりの中でやる。もう子供たちのすごい楽しみになっているそうで、やっぱり地域のおばあちゃんたちがお菓子を差し入れてくれたりとかですね、そういうことから子供たちが本当に育ってるんじゃないかなって。やはり交流というのは大事だなというのを感じました。

それからこの間ニュースでですね、今年生まれた子供がこれからどうなるかっていう人口問題のニュースがあったんですけど、今の子供たちが12歳のときに、4割の学校が減って、空き教室と廃校が増えるという。20歳になったらもう就活で、どうしてももう人が集まらない。42歳の時に、1人で3人分ぐらい働くぐらい労働力が減ると。47歳のときは出生率が今の9分の1になる。9分の1です。そういうのが出てきてちょっとびっくりしたんですね。だからこれからの時代は本当に何て言うかな、コンパクトシティというか戦略的な縮小っていうのをもうちょっと考えていかなきゃいけないってことで。今度あの重点化の研修があるんですけど、その時に学校の適正化というところを選びましたので、またそこで勉強させていただけたらなと思っています。

9 前回の議事録承認

第2回の議事録について了承

10 報告について

報告1 令和7年度国スポ・障スポ推進室 今年度の取り組みについて

(別府委員)

のぼりの案がすごくいいなと思ったんですけど、これってあれですか。モデル校っていうのは何か、モデル校になった学校というのは何か、学校側が主体でしたいですみたいな感じで決まったんでしょうか。

(谷口室長補佐)

このモデル校の選定にあたってはですね、市内の全小中学校に応

	援のぼり旗を令和 7 年度と令和 8 年度に分けて作っていただくことになります。本年度 47 都道府県分、いわゆる 47 枚ですよ。47 枚を作っていただくわけなんです、大体生徒 5, 6 人に対して 1 枚を作っていただくような計算で行っておりまして、それを逆算といいますか。すると、南郷の学校がすると大体これぐらいになるというように、南郷を中心にですね、お願いをしたところでございます。そのため今回令和 7 年度に作ってもらうこの 6 校については、来年度はもう作らず、令和 8 年度はその他の学校で作るというような形になります。
(別府委員)	わかりました、ありがとうございます。
(佐藤委員)	この広報啓発事業の出前講座。これすごくいいなと思ったんですけど、やっぱり応援しようとなると、どんな大会かどんな種目のか、どういう方が見えるのかってのがわからないと、応援しようという気にもなかなかならないと思うんですけど、この中身は何かこうちらちらしてみると、どんな内容なんですかね、クイズとか。
(谷口室長補佐)	県の方がですね、国スポ障スポのテーマソングのほうを決めてまして、「ひなたのチカラ」というですね。そのひなたのチカラに合わせた体操、1130 体操っていうのを県の方が作成してるんですよ。そういったものでまずはそのウォーミングアップをして、そのあと我々が 20 分程度スライドを使ってプレゼンをして、そのあとにクイズをしてっていうことで、大体 50 分間、もちろんその時間については、配分についてはどうにでもなるんですが、基本的には 50 分間でメニュー化したところがございます。ただ今の内容は、小学校の高学年以上だったら何とかその内容で対応できるんですが、小学校の低学年、幼稚園生とかも含めて低学年、ちっちゃい子となるとやっぱり厳しいので、我々としましては缶バッジを作成をするためのマシンといいますか、機械をちょっと購入させていただいて、例えば低学年にはその缶バッジを作るための塗り絵をしてもらって、キャラクターの宮崎犬とかにちなんじゃ様の色塗りをしてもらって、それで缶バッジを作ってプレゼントするというような、そういった小さい子どもさんたち用のメニューも考えておりまして、そういったもので今後どんどん啓発をしていきたいなというふうに思っているところです。
(佐藤委員)	競技に関してはプロじゃないからですね、なかなか触れ合いとか交流とか難しいんでしょうけど、日南市内でこう出場される方とか、なんかそういう方のお話とかですね。その競技体験とまたできると、

	子どもたちは良いんじゃないかなとは思いますが、なかなか難しいところもあるでしょうけど。
(谷口室長補佐)	参考にさせていただきます。
(別府委員)	この看板や協賛企業。これって大体幾らぐらいの協賛金でできるのかっていうのは決まっているんでしょうか。あとその募集みたいなのでどういった形でかけるのかを教えてくださいてもよろしいでしょうか。
(谷口室長補佐)	金額についてはですね、その場所場所によってとか、あと作るものによってちょっと変わってくるんですけど、企業協賛回の際にですね、カタログみたいなのをちょっと作って、例えば文化センターの壁面だったら 5 万円とか、運動公園の防災公園の横の横断幕だったら 10 万円とかっていうような、例えばの話なんですけど。そういったカタログを作って、それで企業を回ってお願いしようかなというふうに思っております。
(別府委員)	広報誌に載せるんじゃないくて、もう回っていくんですね。
(谷口室長補佐)	個別にもう回っていききたいなと思っております。
(都甲教育長)	もちろんまた来年はこういう話をして欲しいですし、いろんな施設の改修も進んでいくから、また近づいたら見に行きましようかね。多目的の冷房でも当たりいきましようかね。
(佐藤委員)	いいですね、あそこはやっと入ったわけですか。
(別府委員)	工事したんですね。
(都甲教育長)	あれは今ね、照明だけ。今から冷房、その空調をするんですよ。
(佐藤委員)	さくらアリーナとかも予定あるんですか。
(谷口室長補佐)	空調はさくらアリーナの空調は入れないです。バレーボールの時は仮設で入れます、はい。大会の期間中だけ仮設ということで。正直に申し上げますと、多目的体育館で 3 億 1500 万という数字を出していますけど、多目的体育館は配管がもうすでに通っているんですよ。なのでこういう言い方したらあれなんですけど、3 億 1500 万で済んだっていう。さくらアリーナも空調を入れようと思ったら、もう本当その倍ぐらいの金額がかかるような感じなので、そこまで予算要求できませんでした。

1 1 議題について

協議 1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

(上村補佐)	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について説明。
(都甲教育長)	この内容でご承認いただけますでしょうか。
(教育委員)	承認。
(上村補佐)	ご承認いただけるということで、令和6年度の評価につきましては棕木先生に見ていただくということをお願いをいたします。
(都甲教育長)	またこの内容とかについてはですね、いろいろ聞いていただいても良いので、それでまた深めていければなと思っておりますので、よろしくお願いします。

協議 2 6月議会上程議案等について

(鬼東部長)	6月議会上程議案等について説明。
	生成 AI パイロット校事業というのが油津小、油津中、桜ヶ丘小でされるということなんですけど、これ3校がいろいろと研修を受けたり発表して、そして成果報告会議をやって、これが良かったら他の学校でも活用していくっていう流れになるんでしょうか。
(赤池担当監)	これそもそも2年間の事業になっておりまして、先日の校長会の方でも少しご説明を差し上げたんですけども、各3校で実施をしていく中で、もう同時並行で協力校として日南市内のすべての学校で取り組んでもらうということで。成果が出ているもの、あるいは取り組みやすいものについては、ICT 支援員が各学校に配置されておりますので、その ICT 支援員によってですね、どのような形で進めていけばいいのかというのを、働き方改革に繋げるという点で、各学校にばらまくと言ったらおかしいですけども、広げていきたいというように考えているところです。
(佐藤委員)	関連して具体的にはどのような、先生方が作られる文書とかでしょうか。

(赤池担当監)	例えば各学級で週に 1 回程度に今なってると思うんですけども学級通信であるとか、教頭先生や校長先生が作られる学校通信であるとか、あるいは職員会議に用いるような資料であるとか、そういったものを生成 AI を使ってというふうに考えているところです。本日皆様のお手元にお示ししております、この教科書展示会の資料につきましても、担当の方に言ってですね、生成 AI を使って作っております。
(都甲教育長)	結局そういうのを広げていって、これぐらいやっぱり効果があるからということで、議会なんかに理解をもらって、予算を今後またもらっていくような形になるわけですね。そのための取り組みです。
(八木委員)	使ってる先生もいらっしゃいますもんね。
(都甲教育長)	そうそう。
(赤池担当監)	それこそその生成 AI の説明会が文科省の方であったんですけども、宮崎県がとても遅れているということが改めて分かって、今回部長と教育長の方にお話を差し上げて、この事業に手を挙げさせてもらったんですけど、本当に手を挙げてよかったなというふうに思っているところです。
(都甲教育長)	いろんな条件を入れると、割とパツと作ってくれて。あとは人間がしっかり見て、それを修正していけばいいので、その 0 からじゃないからそれが大分違いますよね。
(佐藤委員)	娘がですね、生成 AI を使ってから作ってくれたんですよ。もう写真やらをパツと入れて、細かいところは私のほうでちょっとこう修正して何かね。プロが作ったようなかんじになりますね。
(都甲教育長)	そう、やっぱり大分その時間も違うんじゃないですか、かかる時間も。
(佐藤委員)	短いですね。
(別府委員)	うちもファックスで注文が来たやつを、チャット GPT に送るとエクセルの表にして返してくれるんですよ。だからもう打ち込む必要がない。先生たちもそれこそ学級通信のイラストとかに使えるのかなと。だからもう今からイラスト集とか、うん。何かあれも売れなくなってくるだろうなという気がしています。働き方改革にはかなりこれ、すごいことになるのかなと。
(八木委員)	間違えているところを直してもらったりですね。
(佐藤委員)	教育委員会の議事録は AI ですか。
(上村課長補佐)	話し方のくせとかそういったものの学習はしていったるんです

	が、まだ職員が作成しています。
(佐藤委員)	幼稚園の方でもですよ、職員の議事録なんかはAI がうん。こんなちっちゃいやつで2万8千円で、Amazon で買ってするんですけど、すごいですよ。もう余計なおしゃべりはカットするんです。要点だけで、私の変な冗談とかは綺麗にカットされて、要点だけがバーツと出てくるんですよ。
(都甲教育長)	同時進行的にどんどんどんどん要点を、するんですよ。
(別府委員)	今日の朝のニュース見ましたか。朝のニュースで、家庭の丸付け、あれも無料のアプリがあるんですって。それをとったらAI が丸を全部つけてくれて、もう10分ぐらいかかっていたけど、それがもう簡単になったっていうのがちょうど今日、今朝のニュースであったんで、入れてみてください。
(谷口委員)	毎日の丸付けは結構大変なので、それはありがたいですね。
(佐藤委員)	子どもたちには、私小学校低学年ぐらいまでは反対なんですけど、それ以上はやっぱり授業で使うのもいいんじゃないかなと思うんですよ。やっぱりAI の特性とかですよ。こういう間違いをするとか、この辺は何か、もう当たり前の普通の個性がないとかですよ、そういうのも実感してもらうと。
(都甲教育長)	やっぱりAI はAI の良さがあるけど、人間しかできないこともあるなっていうのは、使わないと分からないことがたくさんあるからですね。中学生とかも使ってるんじゃないですか、あれ会話ができるんですよ。
(八木委員)	なんか聞いたら、次はこれ調べましょうかって会話ができるので、チャットGPTさんって人がいると信じてた小学生がいるそうです。
(佐藤委員)	あんまり低学年からは、私は怖いと思うんですけどね。
(別府委員)	気をつけないと小中学校であんまり使いすぎると、今度は考える力がなくなるっていうのもあって。全部すぐ的確な答えを返してくれるからっていうのもあるみたいで。バランスっていうのが本当に必要になってくるんだなと。
(都甲教育長)	いつもこの中で出るのは裏腹じゃないですかね。もうメリットデメリット。必ずデメリットがあるってことはやっぱりですよ。便利だけどそう、仰るように考える力。今なんて全然辞書引かんじゃないですか。そういうことが始まるじゃないですか。結局話として。
(佐藤委員)	AI には間違いもあるし、嘘を教えることもあるし。だからそこはね、やっぱり授業で中学生ぐらいからはできるんじゃないかなと。
(都甲教育長)	だから先生方もやっぱりこれをやることによって、しっかりそれ

	を賢く使うってこと。そうですね、それを子供たちも教えられるからですね。
(佐藤委員)	この GIGA スクールのこれは、更新にかかる経費ってのはこれ毎年でしたっけ。
(鬼東部長)	そうですね、はい。ちょっと特殊事情がありまして、今年度に関しては本来タブレットの入れ替えをしなければならなかったんですが、ちょっと国の事業費の関係で来年度に延ばしたので、この費用が発生したということで、はい。
(佐藤委員)	通常は、タブレット更新の時に合わせてソフト面も変わるということですか。
(鬼東部長)	5 年の契約期間という形で契約していたんですけども、たまたま今回 6 年になりますので、その分をこれで契約してもらいます。
(佐藤委員)	これは国から出るんでしたっけ。
(鬼東部長)	いや、これは自腹ですね。
(都甲教育長)	国から出るのは物の価格だけ。子どもたちのタブレットの額だけですよね。
(八木委員)	オンライン研修会でそろそろ貯金してくださいっていうか、計画してくださいって文科省の人が説明していましたね。びっくりしたんですけど。
(鬼東部長)	1 年の影響ってやっぱり大きいですね。
(佐藤委員)	伸びなければこれ発生しなかったわけですよ。伸びなければ国の予算の中でできていたんですか。
(都甲教育長)	いや、元々これ国はないからですよ、はい。更新のための。新しいのもまたこれぐらいお金がかかると。機種を更新しても、そうですね。同じでしょう、やっぱり。一年延ばしても新しくしても。
(鬼東部長)	ただ、5 年間で見るか、単年度で見るのかというのはそれはまた違いがありまして、あくまでも単年度でこれは見てますので、はい。
(佐藤委員)	5 年契約の時もハードの面は国が見てくれるけど、ソフト面はやっぱり各市で見るっていう。
(鬼東部長)	また詳細については確認します。
(佐藤委員)	結構な金額になりますね。
(都甲教育長)	やっぱりこういうものはもらったけどあとはやっぱり、各自治体でやりなさいっていうことです。

協議 3 日南市図書館協議会委員の任命・委嘱について

(鬼束部長)	日南市図書館協議会委員の任命・委嘱について説明。
(都甲教育長)	よろしいでしょうか。新しいこういう方たちをお願いするという ことで、お願いします。

協議 4 日南市伝統的建造物群保存地区保存整備費補助金交付要綱の改正 について

(鬼束部長)	日南市伝統的建造物群保存地区保存整備費補助金交付要綱の改正に て説明。
(都甲教育長)	これはあれですよ。上限額がついたりとか、わりと新しいものが 入ってるから、対象のものを持っている人たちにやっぱり周知して おかないといけないということですよ。どういう方法で周知する んですか。
(鬼束部長)	基本的に厳しい条件で特定物件と指定されてるものについてはで すね、もう限定されてますので、そこについてはもう周知はできま す。それ以外の特定物件に当たらない方については、相談が来た際 にちょっとそういうお話をさせていただくといった形で今生涯学習 は対応しています。
(都甲教育長)	そうですね、やっぱりそこはちゃんと丁寧にやらないと。
(鬼束部長)	あくまでもその条件が付されないところについては見える部分だ け。だから塀と壁とですね、屋根と。というところだけを飫肥の町 の景観に合ったものにしてくださってというものになります。例え ば瓦は飫肥瓦にしてください。で、壁については、この城下町にあ った塗装で茶色とか黒とか、そういうような色にしてください。窓 枠は基本こういったアルミのサッシではなくて、木枠にしてくださ いとか。そういった条件が付されますので、伝建地区内にそういう 相談が来たらすべてそういう条件をお話をして、この条件にあった 場合はこの 10 分の 8 補助率の 1000 万円までは出しますよって形の 説明をするという形になります。
(都甲教育長)	ある面で割とまっさらな状態で来てもらわないといけないですよ ね。あんまり決まった段階で来てもらうとですね。
(鬼束部長)	そうですね。どうしても文化庁の予算の枠というのがありますの で、申請をいただいて、相談いただいて、文化庁に申請をして、とい

(都甲教育長)	う形がありますので、やっぱそこら辺はしっかりと打ち合わせをしながら対応していくということになります。
(鬼東部長)	単純に考えて、だんだんだんだん年数も経ってきたし、こういう建物が増えてくるわけですね。やっぱり気をつけていかないとですね。
(佐藤委員)	今回空き地があって、そこに新築で家を立てるっていうケースがありまして、その条件としてその壁、塀とかですね。そういったすべての条件をつけて、それで相手の方が合意されたので文化庁の申請もされた上での補助といった形になります。
(鬼東部長)	業者さんが分かっているらしいですね。申請が必要だということですね。
(鬼東部長)	おっしゃる通りです。

協議5 ふれあいコミュニケーションについて

(武田主任主事)	ふれあいコミュニケーションについて説明。
(都甲教育長)	今年はどこお話しましょうかね。去年の中堅の人たちも良かったですね、やっぱりね。
(八木委員)	これは庁内ではないですね。
(都甲教育長)	はい、庁内はまた別にします。
(別府委員)	くろしお支援とはしましたっけ。なんか中止になりませんでしたっけ。これはコロナで駄目で、そのあともなんかかんかで結局中止に。
(都甲教育長)	コロナで延期も考えたんだけど、結局くろしお支援学校の都合がなかなか合わず、学校的に厳しいということで駄目でしたね。行ってなかったですね、結局。
(八木委員)	前に高校は行ったことがあります。
(佐藤委員)	なかなか微力ではあるんですが、やっぱり学校の先生を応援したいなという気はありますね。次、第2弾として若手の先生とか。中堅の先生も良いですけどね。
(都甲教育長)	一番忙しい教頭先生と話しますか。一番忙しい人に。
(佐藤委員)	夏休みや保護者対応も大変でしょうね。若い先生たちをどう育てるかとかですね。教頭先生。
(都甲教育長)	去年の中堅っていうのは10年目ぐらいでしたっけ。大体30、40

	代ぐらい。でも逆に校長先生たちはね、やっぱりちょこちょこお話する機会はあるからですよ。もう教頭先生と話をしてみますか、今年は。
(別府委員)	学校訪問とか行って、こっちから質問とかするんですけど、もしかしたらこういう教頭先生とかからは、こういうこととして欲しいってというような話も聞けるのかなと思って。こういうのがあると助かるんですけど、みたいな。話が聞ければまた現場の声が聞こえるのかなあと。
(都甲教育長)	教頭先生、何人ぐらい呼びましょうか。6人ぐらいとか。あんまりいっぱい呼ぶとですね、時間も限られてるし。
(別府委員)	どちらか、教頭先生か主幹の先生か。
(都甲教育長)	主幹は少ないんですよ。主幹教諭は市内で3人です。主幹っていうのは数が決まっているんですよ。例えばうちぐらいの市だったら、小学校2校とか中学校1校とか。
(佐藤委員)	あとは教務主任とかね。
(都甲教育長)	うん、ちょっと主幹は教頭と一般の先生の間に位置するところだからですよ、あんまりたくさんいないんです。
(別府委員)	教頭先生が一番ね、PTAとの繋がりもパイプ役になるから、教頭先生の話が保護者と一番近いかもしれませんね。
(都甲教育長)	教頭先生がいいですか。では教頭会にまた話をして、厳選された方を、24人中6人ってことで、24人居られるからですよ。今年は市内も女性の教頭先生が増えて、教頭会に任した方が良いよね、人選はね。こっちがリクエストしてね、こういう形でって。日にちはまた決まったらお知らせします。教頭先生に今年は来てもらうということで、お願いします。

12 その他

(1) 7月行事予定について

(2) 第4回 教育委員会会議（定例）

- ① 日時 令和7年7月24日（木） 午後3時から
- ② 場所 日南市役所・別館2階会議室（会議室5）

1 3 その他

【佐藤委員】

「先程チラッとお話した、こども食堂とかフリースクールとかそういった団体が加盟してるみやざき子ども未来ネットワークの方の主催で今度、油津港まつりの日なんですけどね。宮崎の方で無料で講演会があります。チラシがいっぱいあるんで、よかったら聞いてみてください。講師がですね、萩原なつ子さんという方でいろいろ中央でも活躍されてる方ですよ。面白い話が聞けるんじゃないかと。「ジェンダーの視点から見た居場所づくり」という内容です。よろしかったら。」

1 4 閉会